

都市再生整備計画(第2回変更)

都農中央地区

宮崎県 都農町

平成25年12月

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	宮崎県	市町村名	都農町	地区名	都農中央地区	面積	284 ha
計画期間	平成 23 年度	～	平成 25 年度	交付期間	平成 23 年度	～	平成 25 年度

<b>目標</b>
<p>大目標：本町における「地域資源」や「観光施設」と連携した中心市街地を再構築し、まちに賑わいを醸し出し活力のあるまちづくりを目指す。</p> <p>目標① 地域資源と連携した公共施設の整備により、交流人口の増加を図り、周遊型・滞在型観光づくりを図る。          目標② 地域資源、観光資源と連携した情報発信を行う拠点づくりによる中心市街地の活性化を図る。          目標③ 疲弊した地域経済を活性化させるために、農商工連携を強化し本町産業における所得向上を図る。</p>

<b>目標設定の根拠</b>
<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>本町の基幹産業は農業であり、平成8年度から、特産のぶどうに付加価値をつけるため、地場産ぶどうのみを利用した都農ワインを販売、現在では町を代表する特産品となり都農ワインリーには多くの人が訪れる観光施設となっている。その他、町を代表する観光地として、尾鈴山・日向国一之宮神社があり、最近では旧リニア実験線跡地を活用したメガソーラー事業など新たな観光資源が整いつつある。悠久の歴史・伝統文化・豊かな自然に加え、恵まれた日照条件を活かした新エネルギーなどもまちづくりのコンセプトとして検討している。</p> <p>①都農町地域振興懇話会(町・議会・商工会・農協・漁協・観光協会で構成)における検討事項          ・口蹄疫により本町畜産のみならずあらゆる産業に経済的に疲弊している現状を打破するための対策について、まちに「賑わいと雇用の創出」「外貨の獲得」を図るための中心市街地活性化について検討を行った。          ・商店街では空き店舗が増え、中心市街地の空洞化が進行している。これに歯止めをかけるための対策として商工会が平成10年に作成した「まちづくりビジョン」を参考に新たな核となる施設について検討を行った。          ・観光面では、集客力のある観光資源(尾鈴山・日向国一之宮神社・ワインリー等)があるため、そこから中心市街地へ人の流れをつくるための検討を行った。          ・スポーツが盛んな土地柄であり、陸上競技場やサッカー場、野球場等の施設を活用した滞在型のスポーツ合宿やキャンプ等の誘致を図るための検討を行った。</p> <p>②まちづくり実施計画作成委員会における検討事項          ・まちに賑わいを醸し出すための拠点づくりについて、商工会を中心としたまちづくり実施計画作成委員会が設立され、委員会による具体的計画が町に答申された。</p> <p>③都農地域産業活性化協議会の設立          ・地場産の農産物や魚貝類による新たな加工品を開発することを目的に、町・農協・漁協・商工会・観光協会・地元企業で構成し、現在試作品の開発を行っている。</p> <p>④観光客の受入体制の整備          ・本町観光の玄関口であるJR都農駅のトイレ・駐輪場の新設及び尾鈴山キャンプ場にシャワーや研修室を備えた「憩いの森林館」を平成22年度に整備した。</p>
<p>課題</p> <p>口蹄疫によりあらゆる産業に波及した経済的ダメージから立ち直るため、観光・商工業面での個性化を図り、地域資源と連携した賑わい型商業を実現していくことが最大の課題である。</p> <p>・東九州自動車道の開通による「通過するだけの町」と化すことが懸念される。国道10号線沿いを通過する車両を本町に呼び込むため魅力ある拠点整備が急務である。          ・疲弊した地域産業を活性化させるため、農産物や魚貝類の加工や直売ができる施設により農業・漁業・商業者の所得向上を図る必要がある。また、本町で生産された農産物や魚貝類等の特産品を町外へアピールするために、新たな加工品の開発を行い付加価値を高めることにより魅力ある産業づくりを図り、後継者不足や口蹄疫被害からの復興も図る必要がある。          ・滞在型観光に対応できる拠点施設の整備を図り、観光地や地域資源と連携した観光のパッケージ化を図る必要がある。          ・観光地間及び中心市街地へ人を呼び込むための公共施設の改修やルート整備を行う必要がある。          ・地域住民に貢献するとともに将来への展望を示すため、U・J・Iターン者も含む、誰もが住みたくする健全市街地の形成及び優良宅地の利用増進を図る必要がある。</p>
<p>将来ビジョン(中長期)</p> <p>町内、町外を問わず、誰もが訪れたいまちづくりを進め、中心市街地の活性化と魅力の向上を図る。</p> <p>・第5次長期総合計画に従来の観光地と連携したルート整備を促進、観光資源や周辺環境の整備を図り、観光客誘致について計画がされている。          ・10年後(町制施行100周年)に向けてのまちづくりについては、①中心市街地の活性化、②災害に強いまちづくり、③保健、医療、福祉の連携を柱としている。今回のにぎわい拠点整備には、将来の日向灘沖地震を想定した住民の避難場所、町立病院の建替を含む医療福祉ゾーンとの連携により防災中継拠点としての活用も図る。</p>

<b>目標を定量化する指標</b>							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
				基準年度	目標年度		
1. にぎわい拠点の入込客数	人/年	にぎわい拠点を利用する観光客等の状況	本町観光の情報発信基地として、都農をPRするために、年間を通じて多くの方に来場いただくことを目標とする。	—	—	72,000	H25
2. 観光客数	人/年	本町における観光客数の状況	にぎわい拠点を通じて本町観光入込み客数の増加を目標とする。	441,480	H21	485,000	H25

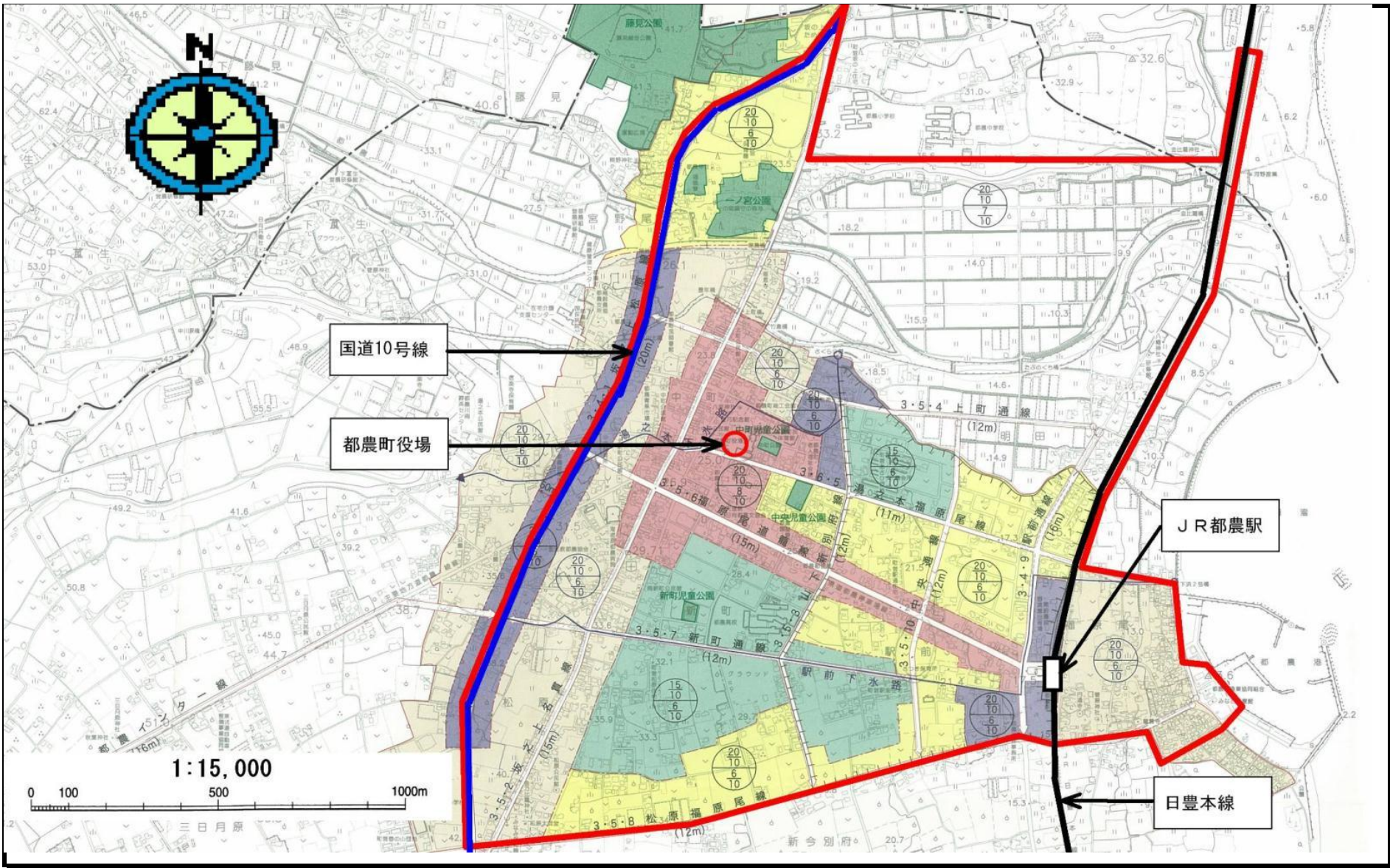
## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・整備方針1(観光交流会館・にぎわい拠点の整備)</p> <p>①本町の主要観光地である日向国一之宮神社の南側に、にぎわいを創出するため核となる拠点施設門前市を整備する。</p> <p>②本町における地域資源や観光資源の情報を一堂に介し、町内外から訪れる人への情報発信基地とする。</p> <p>③本町における基幹産業である農業における特産品をPRし、安心安全な地場産品として直売所を設ける。</p> <p>④国道10号線を利用する車両の休憩の場として、また、本町を代表するイベントである夏祭りや尾鈴マラソン大会等における来客者の利便性向上のための駐車場・休憩所を整備する。</p> <p>⑤本町産の食材を利用した食事処を設け、本町における食の魅力を町内外へ発信する。</p>	<p>観光交流会館整備事業(高次都市施設/基幹事業)</p> <p>にぎわい拠点門前市整備事業(地域生活基盤施設/基幹事業)</p> <p>簡易パーキング事業(関連事業)</p> <p>物産館整備(関連事業、宮崎県口蹄疫復興対策ファンド事業)</p>
<p>・整備方針2(歩道橋整備事業)</p> <p>①本町の主要観光地である日向国一之宮神社とにぎわい拠点門前市とをつなぐ歩道橋を整備する。</p>	<p>歩道橋整備事業(基幹事業、道路事業)</p>
<p>・整備方針3(中部土地区画整理事業)</p> <p>①都農の玄関口でもあるJR都農駅周辺の健全市街地の形成及び宅地の利用増進を図るため、区画道路を築造する。</p>	<p>中部土地区画整理事業(地域創造支援事業/提案事業)</p>
<p>その他</p> <p>○事業完了後の継続的なまちづくり活動</p> <p>にぎわい拠点の運営組織と生産者団体と町で運営についての協議会を設け、事業完了後においても継続的に運営について検討していく。</p> <p>地域産業活性化協議会や地域振興懇話会において、農業・水産業・商工業団体と継続的なまちづくりが実施される見込みが高い。</p> <p>○観光協会との連携強化</p> <p>まちににぎわいを醸し出すために、商工会はもとより観光協会との連携を図ることが必要不可欠であるため、今後もイベントやスポーツ合宿誘致などを通じて連携を深める。</p>	



# 都市再生整備計画の区域

都農中央地区（宮崎県都農町）	面積	284 ha	区域	都農町大字川北の一部
----------------	----	--------	----	------------





# 都農中央地区（宮崎県都農町）整備方針概要図

目標	本町における「地域資源」や「観光施設」と連携した中心市街地を再構築し、まちに賑わいを醸し出し活力のあるまちづくりを目指す。	代表的な指標	にぎわい拠点の入込客数【人／年】	0（平成22年度）	→	72,000（平成25年度）
			観光客数【人／年】	441,480（平成22年度）	→	485,000（平成25年度）

